

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、東日本大震災により被災された皆様にお心よりお見舞い申し上げます。

ここに当社グループ第83期中間期（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期における当社グループを取り巻く事業環境は、東日本大震災により急激に景気が落ち込んだものの、被災地の復興に向けた動きが進むにつれ、緩やかに回復する一方、欧州の金融不安や米国経済の停滞懸念を背景に円高・株安が長引くなど、先行きの不透明感が払拭されないまま推移いたしました。

このようななかで当社グループは、東日本大震災の発生に伴い、アルカリ乾電池の増産に全力で取り組みました。7月以降は需要の落ち着きもあり、安定的な供給が可能となりました。

上期の業績を大きく左右したのは世界的なテレビ需要の低迷でした。液晶パネルメーカーの生産調整による液晶ディスプレイ用信号処理モジュールの大幅な受注減などによりグループ全体の売上高は減少し、さらに電池の材料であるレアアースなどの価格高騰、円高進行の影響もあり、営業利益、経常利益ともに前年同期を下回りました。

中間配当につきましては、未だ事業の再建半ばで欠損金を抱えていることもあり、誠に遺憾ではありますが、見送らせていただきたいと存じます。株主の皆様には誠に申し訳なく、衷心よりお詫び申し上げます。

今後は、欧米の金融不安・経済停滞、円高に加えタイの洪水の影響も懸念され、厳しい事業環境が続くものと予想されます。

当社グループといたしまして、電池事業は、世界最高性能に匹敵する新アルカリ乾電池の発売を計画するとともに、既に量産を開始している薄形リチウム一次電池については、ワンタイムパスワード機能付きクレジットカード用やディスプレイ付きカード用、さらにカード形セキュリティシステム用など他の用途へのご提案を進めてまいります。加えて、大震災後顕在化しました産業用蓄電システムの需要に対応した新製品の導入も計画しております。

電子事業は、山陽工場にてフェライト新工場を立ち上げ、ハイブリッド車や電気自動車、太陽光発電関連機器向けの超高性能なフェライトの生産を平成24年度に開始する予定です。

本年10月3日には「旭化成FDKエナジーデバイス株式会社」を設立いたしました。同社の経営を軌道に乗せ、リチウムイオンキャパシタの市場創出のスピードを加速することで、業容拡大および企業価値向上を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月



代表取締役社長

望月道正